

花のある公園

～パートナーシップ花壇～

花のボランティア活動によって育苗された花苗を各地域の公園に植栽し、水やりなどの管理を行っています。このような花壇を堺市では「パートナーシップ花壇」と

位置づけ、自治会、公園愛護会、その他の団体のご理解を得て、この活動を推進しています。各愛護委員におかれましても、この活動にご賛同いただき、各地域が花いっぱい、潤いと安らぎのあるきれいな街

になりますよう、ご協力をお願いいたします。写真の公園は、大阪高石線(ときほま線)を挟んで西の百舌鳥梅町にあります城の山公園と東にある仁山公園です。



城の山公園



仁山公園

公園に行こう

日本の春を告げる花木として桜と共に古くから親しまれてきた梅で有名な公園を、今回は紹介します。堺市内で梅の名所といえはすぐに思い浮かぶ方もおられるかと思いますが、宮山台にある荒山公園です。昭和57年に開設され、園地は自然の地形を生かし、起伏に富んでおり様々な景観が楽しめます。この公園の第一の見どころは、やはり47種1,400本の梅林です。見頃は気候にもよりますが毎年2月中旬以降です。

梅が終わると園路沿いに植えられた桜や山つつじが咲き、どこからともなく野鳥の声も聞こえ、夏は青葉、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の風情を楽しませてくれます。



市民植樹・育樹祭

全国的にも珍しい取り組みで、市民が主体となり市街地に、このような森があればとイメージした森づくりを継続的に進めており、平成18年3月26日(日)に『堺千年の森クラブ』による「第4回平成の森市民植樹・育樹祭」が大仙公園・平成の森において行います。皆さんも自分たちの手でつくる森づくりに参加しませんか、詳しくは、市広報紙3月号をご覧ください。

梅雨の由来をご存知ですか？

中国では、^{かび}黴の生えやすい時期の雨という意味で「^{ばいりゅう}霉雨」と呼ばれていたが、カビでは語源が悪いため、「梅の熟す時期の雨」で、「梅雨」と呼ばれたとする説があり、日本では「^{つゆ}露」からも、梅の実が熟し潰れる時期であることから、「潰ゆ」と関連付ける説もあるようです。

お願い

みどり通信は、皆さんと共に街の緑を守り育て、地域や人々をつなげていく為の公園ボランティア活動情報紙です。事務局では、季節ごとの公園便りや写真などを随時募集しています。



堺市公園協会ホームページ「はなて箱」

<http://www.sakai-hanatebako.org>

花や緑、公園、施設、市民活動などに関する、さまざまな情報が満載です。ぜひ一度アクセスしてみてください。

堺市公園愛護会 事務局／財団法人 堺市公園協会

〒591-8037 堺市百舌鳥赤畑町1丁3番地
TEL072 (250) 7800 FAX072 (250) 7977
e-mail:sakai-pa@siren.ocn.ne.jp



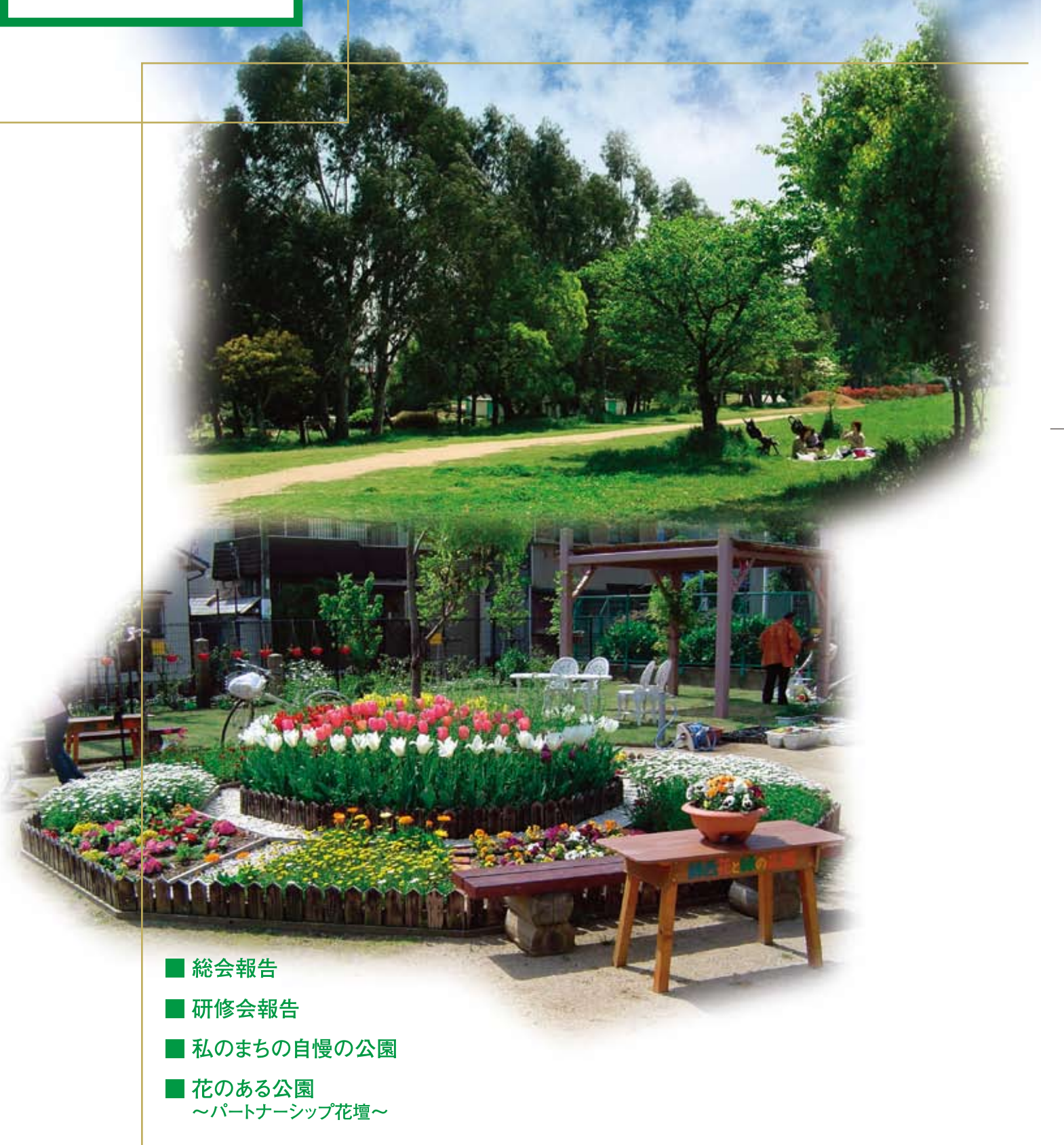
市の花「ハナショウブ」

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。

公園ボランティア活動情報紙

みどり通信

2006 第7号



- 総会報告
- 研修会報告
- 私のまちの自慢の公園
- 花のある公園
～パートナーシップ花壇～

第37回堺市公園愛護会総会報告

- 日時／平成17年7月19日(火)午後1時30分より
- 場所／堺市民会館大ホール

第37回総会において、1,045名の新愛護委員に委嘱書の交付を行い、344名の退任者へ感謝状ならびに記念品の贈呈を行いました。

引き続き市内89校区を60地区に分け代表者として運営委員及び副委員が選出され、その中から支所(6支所)別ブロックの代表としてブロック長、副長各6名ずつ12名を選出。会長はブロック長の互選により選出し、その他のブロック長は副会長に就任、副長は幹事に就任、計12名の役員が右記のとおり選出されました。



堺市公園愛護会役員名簿(敬称略)

役職員	委員名	校区	支所
会長	池田 正規	庭代台	南
副会長	河中 清	湊 西	堺
副会長	新谷 一	深 阪	中
副会長	森田 正朝	野 田	東
副会長	富樫 欣吾	光竜寺	北
副会長	土居 嘉儀	鳳	西
幹 事	奥田 悟郎	はるみ	南
幹 事	村上 慶司	登美丘西	東
幹 事	小西 繁一	八田荘	中
幹 事	笹川 仁	浜寺石津	西
幹 事	乗常 二三子	新金岡	北
幹 事	橋本 秀男	熊 野	堺

研修会報告

- 開催日／平成17年12月3日(土)
- 場 所／サンスクエア堺

朝夕の冷え込みが一段と厳しくなり、冷たい風が身にしみる昨年12月に300名を越える方々に参加していただきました。

始めに浜寺東校区にある浜寺船尾第3公園で、公園愛護委員として20年間(うち公園愛護会副会長として10年間)活動してこられた、奥中登氏より「地域ぐるみで緑化活動」のテーマで事例報告をしていただきました。「開設された当初は、迷惑行為が後を絶ちませんでした。地域ぐるみで協力・連携しながら対処し、子ども達が安心して遊べる公園にしようと努力し、現在では、グループ

を組み公園内の花壇管理をしながら愛護活動を行っています。

ひとりで頑張って作業してもなかなか進まないが、仲間揃って行う作業は楽しく効率も良く、自分達の公園は自分達できれいにしようという高い意識のもと「継続は力なり」を合言葉に、頑張っている。」といった地域に対する熱い思いを語っていただきました。

地域を愛する心が地域を作り上げていき、そんな情熱が次世代にも受け継がれていくのではないのでしょうか。

続いて堺市公園協会 野村勝俊緑化推進員より「安全・安心・快適な公園をめざして」のテーマでの講演では、清掃除草など全部をやるというのは大変であるから、目に付くところからやっていけば比較的楽になるといった話や、巡視による危険箇所の早期発見や快適でない状況を見つけ出す観察力、自分に出来ないことは、各公園事務所に連絡していただくことなど、



市の鳥「モズ」

公園を良くするための話をしていただきました。

その後は、桂すずめ(女優 三林京子)さんによる落語や堺市都市緑化センター友の会によるクラフト作りや、寄せ植えの講習、また、緑化推進員による解説を聞きながら東雲公園のバラ園を散策し、楽しんでいただきました。

今回、都合によりご参加出来なかった方々も、次回は是非ご参加ください。お待ちしております。



市民の木「ヤナギ」

愛護委員だより

～地域活動の紹介～

清水はざま公園・深井清水町つわぶき広場・深井清水町ありんこ公園
深井花のこみち(春)(夏)(秋)(冬)
清水おさ公園・清水こやま公園・深井中町しくらめん公園

【公園愛護委員】 松谷秀三氏 堀之内修氏 西野由美氏 西野正二氏 梶谷美津夫氏 寺西光子氏 北條恵美子氏 吉村サト子氏 南埜柳太郎氏 土師清氏 真鍋正氏 嶋田孝志氏 中野八重子氏

町内のシニア・ソフトボールチームのメンバーが中心となって、笑顔の輪が広がっています



深井清水町にある公園のひとつ「清水はざま公園」は、泉北高速鉄道深井駅から西へ徒歩約5分。高圧電線の下に四季折々の樹木を配植した「深井花のこみち」に隣接し、散策やジョギング、運動などの憩いの場として、また、春には公園の自慢のひとつである桜を見物する人々ににぎわいます。公園名の「はざま」と言うのは、かつてのその土地の由来から名前がつけられており、地域の歴史を物語っています。そういう意味でも地域に根ざしたコミュニケーションの場にふさわしい公園と言えます。

毎週2回、月曜と木曜の朝、地域のシニア・ソフトボールチームのメンバーが集まり、バットではなく、ほうきやちりとりなどの清掃道具を手にし、落ち葉拾いや除草などの活動を行います。残念ながら、犬のフンや大型ゴミなどの不法投棄、夏場には花火の後始末など悩みはつきませんが、日頃から公園利用者に声をかけ、マナー違反には注意するといったことを心がけるなど、地域の人々とのコミュニケーションが、徐々に功を奏してきているようです。

利用者一人ひとりに、公園を自分の庭のように思ってもらえればと願っています。公園は地域みんなの憩いの場。これからも子どもから高齢者まで、地域の人々と共に親しみの持てる公園に作り上げていきたいと思っています。

私のまちの
自慢の公園



ひらき開公園

【公園愛護委員】 小城保氏 石井陽子氏

子ども会と連携、世代を超えて広がるコミュニケーションで、地域の公園を美しく保つ

深井睦地区は昭和40年代から50年代にかけて整備された土地区画整理区域で、泉北ニュータウンに隣接する新興住宅地です。「開公園」も区画整理時に整備された公園で、公園になるまでは「開の田」と呼ばれた田園地帯だったそうです。今では地域住民の憩いの場として、幅広い年齢層の人々に愛され、親しまれています。この公園は、なだらかな起伏があり球技などのスポーツには適しませんが、さまざまな樹木たちが四季折々に目を楽しませてくれます。

公園愛護活動は、毎月第3日曜日に愛護委員と子ども会、またそのお母さん方が中心となって、力を合わせて行っています。また、近所の方々が日頃から清掃をしてくださっていて、ゴミひとつ見あたらない幸せな公園だと思います。しかし残念なことに犬のフンや、季候のよい時には弁当殻などの後始末ができない人たちの利用もあり、心を痛めることがあります。その対策として3年ほど前から、他の公園に先立って「ゴミは持ち帰りましょう」のスローガンとともに、大仙公園事務所をお願いをして、ゴミ箱を撤去したところ、ゴミを持ち帰ってくれる方が増え、その効果が出てきました。

また、この公園は、起伏があるために草刈り機などが使えず、手作業が多くなり苦勞することもあります。しかし、子どもから高齢者まで地域の住民一人ひとりとコミュニケーションがとれ、ふれあいの輪も広がってきました。

誰もが安心して憩うことのできる公園を美しく保っていくため、今後も「たばこの吸い殻ひとつ落ちていない公園」を合言葉に、がんばって取り組んでいきたいと考えています。

市の花木「ツツジ」

